Joy風
Faculty of Informatics
Shizuoka University Newsletter
Vol.19, October 2017
http://www.inf.shizuoka.ac.jp
October2017
vol. 19
静岡大学情報学部

行事報告

Report of events

平成 29 年度入学式・保護者懇談会

情報学部学生委員会　杉浦 彰彦

平成 29 年度の入学式は、4 月 4 日（月）10 時から静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）にて行われました。本年度は 3 学科体制 2 年目で、情報科学科 102 名、情報社会学科 71 名、行動情報学科 70 名の合計 243 名の新入生を迎えました。

当日午後には、新入生の保護者の皆様を対象とした「情報学部保護者懇談会」が開催されました。会場からは富士山が望める穏やかな天候の中、多くの保護者の皆様にご参加をいただきました。懇談会では、吉田寛学生委員長の司会進行により、近藤真学部長はじめ、竹内勇剛情報科学科長、大島律子行動情報学科長、堀内裕晃情報社会学科長、杉山岳弘教務委員長、学生委員長、許山秀樹キャリア支援室長、M. G. シェフタル国際交流委員長から情報学部の現状、教育、就職、学生生活等の説明をさせていただきました。また、本学部の同窓会組織である浜松工業会会長早川泰弘様からも挨拶を頂戴しました。

浜松市をはじめ静岡県内、愛知・岐阜・三重県を中心に全国から 230 名以上の多くの保護者の皆様にご参加いただきました。また 164 名の保護者の方から、アンケートのご回答をいただきました。多くの貴重なご意見を下さり、誠にありがとうございます。今後の学部運営に反映してまいります。

保護者懇談会会場から望む富士山（2017/4/4）

新入生歓迎合宿 in 伊良湖

情報学部学生委員会　山本 祐輔

4 月 22 日（土）から 23 日（日）の午前にかけて、愛知県渥美半島の休暇村伊良湖にて情報学部の新入生歓迎合宿が行われました。この新入生合宿は、毎年行われている情報学部の良き伝統です。今年は情報科学科、行動情報学科、情報社会学科から 247 名の新入生が参加し、大盛況のうちに終わりました。

本合宿では、毎年情報学部 2 年生と 3 年生の有志が中心となって企画から運営までのすべてを担当しました。今年も 34 名の上級生スタッフが、新入生の時に受けた感激や充実感を後輩に引き継ぐ意気込みで、様々なイベントの企画・運営を行いました。

合宿の様子（2017/4/22-23）

2017 年度夏季オープンキャンパス

情報学部広報委員会　永吉 実武

2017 年 8 月 8 日（火曜日）に開催予定でした静岡大学情報学部夏季オープンキャンパスについては、大型台風 5 号の接近に伴い、皆様の安全を考え、午前の部・午後の部ともに、やむを得ず中止させていただきました。ご来場を予定されていた皆様には、大変ご面倒をおかけいたしましたが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、今回のオープンキャンパスでは、教員による静岡大学情報学部の入学試験・就職・教育・福利厚生（学生生活）に関する個別説明会や教員・現役学生による個別相談会のほか、情報科学科・行動情報学科・情報社会学科から各一名の教員による模擬講義、5 研究室による研究内容・ゼミ等の展示が行われる予定でした。今後の夏季オープンキャンパスでも同様の企画を実施してまいりますので、ご期待ください。入学試験に関する最新の情報等につきましては、静岡大学情報学部の WEB ページ等をご参照いただきますようお願いいたします。

秋季オープンキャンパスは、2017 年 11 月 11 日（土曜日）に「第 22 回テクノフェスタ in 浜松」「第 18 回静大祭 in 浜松」と同時開催されます。みなさまのご来場をお待ちしております。

先端情報学実習

世話人会／情報科学科・教授　竹内 勇剛

４月より情報学部に全く新しい「学びのシステム」が導入されました。それが『先端情報学実習』です。先端情報学実習は、「〇〇をしたい」という意欲のある学生と、それをプロフェッショナルな姿勢のもとで指導・支援する情報学部の教員とが一体となって取り組む、学生の主体性に基づいて実施される研究プロジェクトです。先端情報学実習では、入学時から卒業するまでの４年間一貫して本格的な研究活動に従事でき（ただし教務上の取り扱いは２〜４年次）、学生自身が主体的に研究プロジェクトの立ち上げに参与し、情報学に関わる各分野・領域の高い専門性を有した複数の教員の指導と支援のもとで学術研究に取り組みます。条件が整えば，これを卒業研究として発展させていくことも可能です。現在、12 の研究プロジェクトが実施されており、60 名以上の意欲的な学生が各研究プロジェクトに携わっています。またそれぞれの研究プロジェクトには、必ず所属学科が異なる教員が複数名参画しているため、文工融合の理念に基づく情報学の研究・教育が実践的に行われます。この新しい「学びのシステム」は全国的にも珍しく、他の大学や企業などからも大きな関心と期待が寄せられています。

先端情報学実習プロジェクト紹介①

ICT を利用した新しい合意形成

情報社会学科２年　山田 周平

私は「ICT を利用した新しい合意形成手法」というプロジェクトに参加しました。このプロジェクトの目的は技術的デザインと社会的デザインを融合した合意形成手法を考案することにあります。とはいえ、私を含め参加者は合意形成についてほとんど何も知りませんでした。そのため前期はプロジェクトに本格的に参加するにあたって必要な知識を得ることを目標に、民主主義、中でも熟議民主主義に関して文献を使って学習しました。また、Web 上の合意形成支援システム「Collagree」を利用して実際に議論を行い、問題点について話し合いました。

プロジェクト実施者は、社会学・政治学を専門とする中澤高師先生、マルチエージェント技術を研究している福田直樹先生、哲学やガバナンスの研究をしている吉田寛先生の三人の教員、加えて社会学を専門とする学術研究員の辰巳智行さんの四人です。対して参加者は二人でどちらも情報社会学の二年生です。このように教員より学生の方が少ないということもあり、非常に濃密かつ有意義な時間を過ごすことができました。来期も継続して履修していきたいです。

先端情報学実習プロジェクト紹介②

自然言語処理による対話システムの研究

行動情報学科２年　小川 ちひろ

狩野先生は、日本語や英語などの自然言語をコンピュータで扱う「自然言語処理」を研究されています。このプロジェクトでは、自然言語処理による対話システムの構築が目標ですが、そのためには多岐にわたる研究分野、研究テーマでの取り組みが必要となります。そうしたテーマの一つとして会話の駆け引きと嘘によってゲームが進行される「人狼」をプレイする AI「人狼知能」を作成しています。その成果は、CEDEC カンファレンスのセッションで発表し、取り組みは新聞やテレビでも報道されました。

狩野先生と研究室の先輩からサポートを頂きながら実用レベルのプログラミングに携わることで、今まで講義で学んできたことがどのように研究で生かされるのか、また研究を行うにはまだまだ知識が足りないことを強く実感しました。そして、自分が今後やりたいこと・やらなければならないことのビジョンが明確になってきたので、そのための技術を更に身に着けていきたいと思います。

先端情報学実習プロジェクト紹介③

新たな知的 IoT システム創出の研究

情報科学科２年　鈴木 優佑

本プロジェクトは情報科学科と情報社会学科から学生 12 名が参加し「既存 IoT/AI システムの技術や知識について理解を深め、新たな IoT/AI システムを創出する」ということを目標に、峰野先生、西村先生、荒木先生、西田先生らのご指導のもと、大きく３つの活動を行いました。まず既存の IoT/AI について調査、議論を行い、現在の IoT/AI の動向や技術について触れました。次に Raspberry Pi 2 を用いて IoT システムの基盤となる通信プログラムを体験しました。最後にグループに分かれて新たな知的 IoT システムについて検討、発表を行いました。これらの過程で技術や知識の未熟さを痛感したり、実際に手を動かすことで得られる楽しさだったりを感じることができとても刺激的でした。

授業としての活動は前期で終わりましたが、私と脇で日経 Linux 等が主催する『みんなのラズパイコンテスト』へ応募することにしました。試作物の検討や開発などで、先生方や先輩らからアドバイスをいただきながら楽しく準備を進めています。せっかくなので入賞目指して頑張ります！

先端情報学実習プロジェクト紹介④

米国シリコンバレーの学習と "Hamamatsu Valley" 実現化提言

行動情報学科２年　山本 拓未

先端情報学実習を通じて私は「米国シリコンバレーの学習と” HAMAMATSU Valley” 実現化提言」というプロジェクトを行っています。皆さんは米国シリコンバレーと聞いてどんなイメージを思い浮かべますか？ Apple, Google, といった名高いインターネット企業の本社がある場所。世界的に利用されるサービスや研究開発の拠点・IT 企業の拠点など名前は知っていてもシリコンバレーという街自体あまり知らない方が多いのではないかと思います。このプロジェクトではそんなシリコンバレーについて学び浜松にどう活かすことができるかを様々な視点から模索・研究しています。シリコンバレーについて知るため「シリコンバレー日本大学」の学長と浜松キャンパスをテレビ電話でつなぎ直接議論することもありました。このプロジェクトをとおして起業するとはどういうことなのか、何が必要でシリコンバレーではどのようなことが起こっているのかを学ぶことができました。今後は先端企業の集まるシリコンバレーの強み・利点を浜松でという環境でどう活用することができるかを研究していきます。

情報社会と労働

情報社会学科　藤岡 伸明

今年２月に着任しました藤岡です。情報技術の発展と経済のグローバル化によって、人々の働き方や働く場がどのように変化しているかを研究しています。機械や情報機器が発展・普及すると人間の仕事はラクになりますが、その影響で熟練労働者の仕事が減少し、不安定雇用者や失業者が増加してしまうこともあります。グローバル化は経済活動を規制する国境という壁を低くすることによって、多くの人に国内外の多様なフィールドで活躍する機会を提供してくれます。しかしながら、グローバル化は人だけでなく企業に対しても海外へ移動する機会を提供しますので、企業の海外移転を促進して国内の良質な雇用を減少させてしまうこともあります。このように、現代の情報社会では、情報技術の発展と経済のグローバル化によって人々の働き方や働く場が劇的かつ複雑に変化しています。こうした変化を読み解きながら、１人でも多くの人が働きがいのある人間的な仕事に従事できる情報社会をデザインすることが私の目標です。静岡大学情報学部では、学生たちが抱く「働くことに対する希望や不安」と向き合いながら、研究と教育に励みたいと思います。

機械学習・物理学・脳神経科学・認知科学の知見を融合した、創造性の計算理論と自動化の研究

情報科学科　須藤 明人

私たちは、新しくて効果的な情報を生み出す「創造性」の計算理論とその応用について研究をしています。人間の創造的な活動では様々なものが生み出されますが、いずれも新しい“情報”が生成された結果だと解釈できます。したがって、情報生成の過程を研究することが創造性の理解と自動化につながると考えています。

実用化された手法として、アイデアを既存の知識の絶妙な組み合わせと捉え、その組合せの生成プロセスを計算論的に表現することで、アイデアを自動生成する手法があります。過去に成功したアイデアに関するデータから、機械学習を用いてモデルを構築します。そのモデルを使って、新たなアイデアをコンピューターが出力します。

この手法を、民間企業と共同で行った新サービスを発案する研究で評価したところ、人間だけで作ったサービス案よりもオリジナリティの高いアイデアが生成できたという評価結果を得ました。

現在は、企業と共同で社会実装を推進するとともに、機械学習・物理学・脳神経科学・認知科学を専門とする若手研究者チームを組成して情報生成の数理的基盤に関する理論研究を並行して進めています。

情報技術に「使われない」ための情報学

行動情報学科　山本 祐輔

「情報の信憑性の分析・判断支援システム」および「態度・行動変容の情報インタラクションデザイン」に関する教育・研究を行っています。

インターネットや情報アクセス・処理技術の進歩によって、いつでも誰でも簡単に情報を取得することができるようになりました。また、ユーザの状況に最適化された情報サービスが提供される便利な世の中になりつつあります。一方、高度に便利化された情報社会では、人間の情報への関わり方が受動的になりつつあるため、知らず知らずのうちに誤った情報を鵜呑みにしたり、取得する情報の偏りによって考え方や行動の範囲が狭くなっていたりすることがあります。

ますます便利になりつつある情報社会において、情報技術に使われるのではなく適切に情報技術を使うための「気づき」を与える情報システム、インタラクションをどのようにデザインしていったらよいのか。静岡大学情報学部の学生さんと一緒に考え、研究を行っていきたいと考えております。

パスワードはもう限界？ －究極の認証技術への挑戦－

情報科学科　大木 哲史

４月に着任しました大木哲史です。本人確認技術、特に生体認証を中心とした情報セキュリティの研究に取り組んでいます。人が社会生活を送る上で個人の身元を確認し、信頼を構築することは、実に様々な活動の基盤となる重要な行為です。印鑑や署名、さらには顔見知りといったアナログな本人確認手段とは異なり、情報社会においては、これらの確認をネットワーク上で確実に行わなければなりません。ネットワークにおける本人確認技術の最も代表的な例がパスワードですが、多くのパスワードを記憶することが現実的に困難となっていることは皆さんもご存知の通りです。パスワードに代わる技術として期待が集まる生体認証技術は指紋や顔だけで本人が確認できる非常に便利な方式ですが、一方で究極の個人情報である生体情報を使うことへの懸念も取り沙汰されています。生体認証技術等の発展により機械が全人類を識別することは可能となるのか？またその際に生じるプライバシー侵害の懸念にはどのように取り組むべきか？といった問題は情報セキュリティの最先端の問題です。このような課題に静岡大学の皆さまと共に取り組めることを楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

平成29年度　キャリア支援室の取組み

Student career support

情報学部キャリア支援室　西村 雅史

キャリア支援室は、学生に対する早期キャリア意識形成から進路指導・決定までの支援を行うことを目的とする組織です。キャリア支援アドバイザを含めた室員8名体制で、キャリア意識啓発のためのガイダンス、企業・官公庁へのインターンシップ、キャリア支援説明会や合同企業説明会の開催、OB・OG会組織との連携による情報交換などの支援を実施しています。

平成29年度9月末で、情報学部学部生79%、大学院生83%が内々定を得ており、ほぼ例年通りの内定率を達成しています。引き続き、就職担当教員やキャリア支援アドバイザとの個別面談や相談等により未内定学生のための支援に尽力しているところです。

社会がどのような経済状況にあっても言えることは、企業は、見通しのきかない中に針路を指し示すことのできる人材を求めているということです。企業のそのような求めに応えるのが能動的な力、すなわち「自分で考え、行動する力」です。学生はこの力をインターンシップで試すことが出来ます。2017年度は数多くの学生がそれぞれ企業を自分で選択し、多くのインターンシップを経験し、これまで築いてきたキャリア意識形成を更に押し進め、就職活動の準備を整えました。また、これ以外にも、情報学部3年生、大学院1年生の計11名の学生が実務実習を選択し、東芝キヤリア、日立ＩＮＳソフトウェア、Fringe81、浜松市役所、K-mix、浜松市文化振興財団、三島信用金庫など、民間企業や公共団体に於いて、主に夏休み期間中に1～2週間の研修に就きました。このインターンシップについては実習の前後に企業研究成果・実習内容等の発表を行い、実習期間に応じて1～2単位が付与されます。キャリア支援室ではガイダンスで多くの学生にインターンシップに参加するよう指導しています。

大学院新入生研修会（2017/4/7）

今年度4月には大学院1年生を対象に、2年間の修士課程での過ごし方、研究や自己形成の心構え、仲間との共同研究の方向性などについて考える機会を作ることを目的に、大学院新入生研修会を実施しました。今回はヤマハ　小山雄介氏・ＮＴＴドコモ　松木彰氏をお迎えして、講演を行っていただきました。演題は「大学院に進学することの意味」でした。学生にはワークシート記入（個人学習）、ワークショップ（グループ学習）を経て、討議結果を各グループでまとめ、報告してもらいました。この研修を通して、大学院での学び（経験）と、その後のキャリアがどのように結びついていくのかを院生に考えてもらい、キャリア形成の一助となったことと思います。保護者の皆様に年度末には良い報告が出来るようにキャリア支援室員一丸となってキャリア支援に努めてまいります。

学位記授与式・卒業祝賀会のご案内

平成 29 年度の情報学部学位記授与式は、平成 30 年 3 月 22 日にグランドホテル浜松 (鳳／ 2 階大ホール) にて、また、卒業祝賀会はホテルクラウンパレス浜松 (4 階芙蓉の間) にて開催されます。

学位記授与式におきましては、ご臨席の保護者様が多数の場合には、十分な席数を確保することが困難であることをあらかじめご承知おきください。

また、卒業祝賀会は卒業生･修了生および教職員のみの参加となっておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成 29(2017)年度　行事予定表

2017年

10月2日	後期授業開始
10月14日	新講義棟落成記念式典
11月11･12日	静大祭･テクノフェスタ(浜松)
11月11日	保護者懇談会･個別面談
11月18･19日	静大祭(静岡)
12月24日	集中講義(~ 12月27日)
12月28日	冬季休業(~ 1月3日)

2018年

1月5日	授業再開
2月5日	後期試験期間(~ 2月9日)
3月22日	学位記授与式･卒業祝賀会(浜松)
3月23日	学位記授与式(静岡)
3月26日	春季休業(~ 3月31日)

新講義棟整備へのご寄附のお願い

情報学部長　近藤　真

情報学部 3 学科の新体制と新しい教育手法に対応した教育環境を整えるため、現在、5 階建ての城北講義棟の建設を情報学部を中心に進めています。10 月 14 日（土曜日）に新講義棟落成記念式典が挙行されるとともに、今年の後学期の授業から使用開始します。

新講義棟には、アクティブ・ラーニングという新形式の教育を実践するための設備の導入、イベント・学会を行うための大教室という特徴を盛り込みました。この野心的なプラン実現のために、地元の企業・社会、同窓会・保護者の皆様にご寄附をお願いしております。

ご寄附につきまして、厚かましいお願いで恐縮ですが、1 口 1 千円、1 口以上でお願いします。なお個人で 3 万円以上のご寄附を頂いた方には、新講義棟に設置する芳名板にご芳名を掲示させて頂きます。詳しい説明は情報学部専用 Web ページ (www.inf.shizuoka.ac.jp) のバナー「新講義棟寄附のお願い」をクリックしてご覧下さい。

新講義棟は、情報学部・研究科学生の教育と研究の更なる発展をめざし、今、私たちが一番力を入れているプランです。ここでの効果は、授業だけに止まらず、授業外での自主的な勉学、学会・研究会に活用されます。皆様にどうかご寄附をお願いする次第です。

新講義棟イメージ図

お問い合わせ　〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局
TEL：053-478-1510　FAX：053-471-0249
学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp　広報窓口 prcom@ml.inf.shizuoka.ac.jp

Joy風 vol.19 October2017

情報学部のウェブページをご覧ください。

情報学部のウェブページに最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。

http://www.inf.shizuoka.ac.jp/